

## 86 テル・ブルッヘンの《聖マタイの召喚》

カラヴァッジョから伝達のテクニックを学んだ画家

2024

真鍋友範



《聖マタイの召喚》1620 テル・ブルッヘン

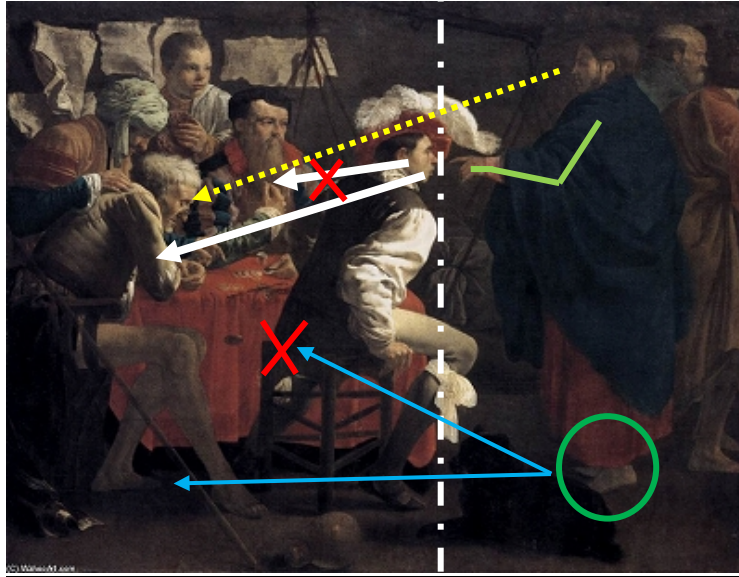
ここに描かれたストーリーは、絵を読めば分かるが、一目瞭然ではない。なぜなら、先入観に頼って判断すると、間違いやすく、紛らわしい内容だからだ。

もっとも、元絵のカラヴァッジョ作《聖マタイの召命》も、輪をかけて紛らわしい内容の絵画だからだ。

ここで、いきなりクイズに移ろう。イエスに呼ばれたのは誰だろうか。

『呼ばれた人は、胸に手を当てる髭男』と、答えたあなたは、間違っている。

では、間違ったあなたには、特に注意する場面を抽出して解説しよう。



- 解析 1 : 黄緑の折れ線 : イエスの左腕の骨格位置透視図  
 デッサンが理解できるなら、これが見えるはず。  
 上腕が少々短く見えるのは、上腕を横に開いているからだ。  
指差した方向には眼鏡の男がいる。髭の男ではない。  
 上半身は、質問される瞬間の姿勢、下半身は召命時の姿勢。  
 つまり、質問時から召喚時へと、上体を少し回転移動させている。
- 解析 2 : 緑の円内 : 両足の方向軸の向かう方向 髭の男ではなく、眼鏡の

男。

つまり、眼鏡の男を見ている。

- 解析 3 白の矢印 : 質問した髭男に対して、『眼鏡の男』だ、と答えている。  
 解析 4 白一点破線 : そもそも、これは《左右空間圧縮構図》・イエス一向は、帽子をかぶり、背を向けて座る若者の視線の先、画面外の数

メ

ートル右側にいる、という前提がある。

では、この場面の正確なストーリーを再現する。

イエス一向がいきなり収税所に現れたのに気づいた納税者の髭男は、イエスに対し、人差し指と親指を合わせた手を胸に押し当てて質問した。『お探しの人は、私ですか。』

イエスは、眼鏡の男を見て、両足を眼鏡の男に向けて、正対し直し、静かに指差して、『眼鏡の男だ』、と答えた。同時にイエスは『私に従いなさい』と呟いた。

つまり、この正確なストーリーを再構築できなければ、このバロック絵画を理解したと言えないのだ。

テル・ブルッヘンは、当時ローマにいたカラヴァッジョから、この【リアルな描写を正確に読み込んだ人だけが、内容解明に到達できる】という、高度なバロック絵画の構成テクニックを伝授されたのか、あるいは学び取ったのだろうか。

【身体動作を細かく読み取らないと、解けない搜索者という形式】は、カラヴァッジョ絵画への正確な理解が無ければ達成できない独特な形式であり、これを再現したということは、テル・ブルッヘンは、尊敬するカラヴァッジョ絵画をオマージュして、自身の作品を20年後に描いたことになる。

現代人には、この【リアルな身体動作を細かく読み取り解き明かす解釈】が困難だ。だから、荒く場面を見て、読み間違いに気づけなくて、呼ばれたのは質問する髭男だ、と誤解するのだ。

イエスは、誰を指差したのか。その答えは簡単だ。

イエスの指先だけを見ては、観察不足だ。イエスの足を見る必要がある。

【イエスの足元の方向軸は、眼鏡の男に向かっているのだ。】

また、イエスの頭部は完全に頭部側面の描写だ。完全な横顔だ。

つまり、【イエスは質問した髭男を見ず、髭男を見ている。】

結論として、イエスは、眼鏡の男を呼び出しているのだ。

言い換えれば、当時のオランダ人画家テル・ブルッヘンの描いた《聖マタイの召喚》は、カラヴァッジョの描いた《聖マタイの召命》に於いて、【誰がイエスに呼ばれたのか】を現代に伝える証人でもあるのだ。